

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
ゴムの働き ～ゴムで走る車を使って～	中	生活 Ⅱグループ (理科)	森永彩未

<ねらい>

- ・ゴムの力で物を動かすことができることを知る。
- ・力の大きさを変えることで、物が動く様子が変わることを調べることができる。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

①車を走らせる。（ゴムの力で動くことの体験。）

②実験をする。（力の大きさを変えることでの距離の変化について）

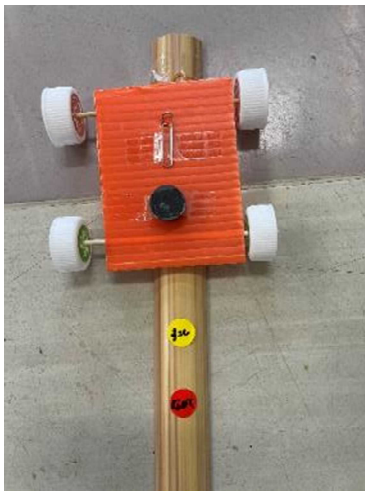
テーマ：遠くまで車が走るには？

予想：選択式で提示。

記録：廊下で実施。ゴムの力で動く車を使用。クリップを発射台のゴムにひっかけて車を走らせる。（少しだけひっぱる、ながくひっぱるの2パターンで。）

メジャーで測定。

結果：記録を見て考える。言葉が出ない生徒が選択式で提示。



生活 実験記録用紙

なまえ()

テーマ

手帳

記録

	すこしだけひっぱる	ながくひっぱる
1かい	m cm	m cm
2かい	m cm	m cm
3かい	m cm	m cm

結果

なが
①ゴムを長くひっぱる

とお はし
ほうが遠くまで走る。

②ゴムをすこしだけひっぱる

とお はし
ほうが遠くまで走る

※車にのっている磁石は重りとして。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・生徒が車に興味をもち、意欲的な姿が見られた。
- ・すこしのところまで引っ張る際、長くまで引っ張りたがる生徒が多かった。
- ・引っ張りすぎると、まっすぐ走らず、距離が伸びない。

<その他（材料、費用、購入先等）>

- ・プラスチック段ボール、ペットボトルのキャップ、竹串、クリップ、輪ゴム、竹、丸シール